

専任教員の教育・研究業績

| | | | | | | |
|---|---------------------------------------|---------------------------|--|----------|----------|---------|
| 所属 | 職名 | 氏名 | 大学院における研究指導担当資格の有無 | 無 | | |
| 教育学部 | 教授 | 岡崎 均 | | | | |
| I 教育活動 | | | | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年月日(期間) | 概要 | | | |
| 1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) | | | | | | |
| 社会科学論Ⅰ・社会科学論Ⅱ | | 平成27年9月～現在に至る | タブレットPCを積極的に活用し、写真や統計資料、地図アプリ等を用いて、ICTを活用した新しい社会科の学習指導のモデルを示範し、深い学びとしての社会科授業の在り方について考えさせている。 | | | |
| 教科教育法(社会) | | 平成28年4月～現在に至る | 模擬授業でのプレゼンテーションやディベートでの立論資料作成等一人で若しくはグループで1台のタブレットPCを活用し、学生一人一人のこれからの教師としてのスキルを高めている。 | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | | | | |
| 教育学部FD講習会 | | 令和1年5月15日 | 教育学部のFD講習の講師として、本学教員を対象にタブレットPCの講義への有効活用を、実践事例を交えながら講義した。特に、タブレットPCの講義への機動的活用方法として、ネットワーク共有型のアプリを活用したグループワークの有効性について講義した。 | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | | | | |
| | | | タブレット(1人1台)や電子黒板等のICTを積極的に活用し、社会科を中心とした教科の授業開発と研究を行っている。 | | | |
| 教員免許更新講習 | | 令和1年11月 令和3年11月 | 選択必修の講習として「教育の情報化とタブレットPCを活用した授業設計」をテーマに、教育の情報化とICT活用の動向及び有効性についての理解を目標として講習を行った。情報教育の歴史と特徴的な実践を踏まえ、学校教育におけるICT活用の動向とその有効性を講義し、グループワークを中心にタブレットPCを活用した授業開発、教材開発を通して、学習指導での効果的な活用の在り方について考えることができた。 | | | |
| II 研究活動 | | | | | | |
| 著書(単著) | | | | | | |
| 書名 | 著者 | 総頁数 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 | |
| | | | | | | |
| 著書(共著・分担執筆) | | | | | | |
| 題目/書名 | 著者/編者 | 初(始)頁～終頁 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 | |
| スマートボード、電子教科書を活用した授業づくり/新社会科授業づくりハンドブック | 岡崎 均 /全国社会科教育学会 | 181頁～182頁 | 明治図書 | | 平成27年10月 | |
| 愛媛県南予地方の学校における文楽の教育活動と教育的意義/文化を基軸とした社会系教育の構築 | 岡崎 均 /中村 哲 | 233頁～248頁 | 風間書房 | | 平成29年3月 | |
| 社会科教科書のデジタル化と授業デザイン/社会系教科教育研究のブレイクスルー | 岡崎 均 /社会系教科教育学会 編 | 148頁～158頁 | 風間書房 | | 令和1年11月 | |
| 原著論文(審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。) | | | | | | |
| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初(始)頁～終頁 | 発行年月 | |
| 小学校社会科デジタル副読本の設計と開発に関する研究 -愛媛県南予地方の水産業教材の事例開発を手がかりに- | 岡崎 均 | 社会系教科教育学研究 | 第30号 | 77頁～86頁 | 平成30年12月 | |
| 社会科デジタル教科書設計論 -教科書の構造分析とマルチメディア教材設計論に基づく小学校第5学年の事例開発を手がかりに- | 岡崎 均 | 日本教科教育学会誌 | 第41巻第4号 | 1頁～13頁 | 平成31年3月 | |
| 小学校社会科教科書のデジタル化に関する研究 -教科書の構成ユニットと構造分析に基づく設計理論と事例開発- | 岡崎 均 | 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(学位論文) | | 1頁～276頁 | 平成31年9月 | |
| 総説 | | | | | | |
| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初(始)頁～終頁 | 発行年月 | |
| 愛媛県南予地方の和文化教育 -文楽と学校教育の関わりを事例として- | 岡崎 均 | 大阪体育大学教育学研究 | 第1巻 | 19頁～34頁 | 平成29年3月 | |
| その他(「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入) | | | | | | |
| 区分 | 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初(始)頁～終頁 | 発行年月 |
| その他 | 主体的・対話的で深い学びを実現する学習プロセス」におけるICTの効果的活用 | 単 岡崎 均 | 社会科教育No. 693(明治図書) | | 36頁～41頁 | 平成29年1月 |
| その他 | 日本の工業・情報産業をどう教えるか-社会的な見方・考え方を教える切り口- | 単 岡崎 均 | 社会科教育No. 711(明治図書) | | 18頁～19頁 | 平成30年7月 |
| その他 | タブレットPCの機動的活用とアプリ活用で楽しく深い学びへ | 単 岡崎 均 | 社会科教育No. 719(明治図書) | | 16頁～19頁 | 平成31年3月 |

| 学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入） | | | | | | |
|---|-------------------------------|-------------|--------------------------------|-----------------------|-------------|---|
| 区分 | 年月 | 学会名 | 演題名 | 場所 | 発表者名 | |
| 国内（一般演題） | 平成27年8月 | 日本デジタル教科書学会 | 社会科デジタル教科書の設計理論と開発 | 北海道札幌市 | 岡崎 均 | |
| 国内（一般演題） | 平成27年10月 | 和文化教育学会 | 愛媛県南予地方の和文化教育 | 秋田県由利本荘市 | 岡崎 均 | |
| 国内（課題研究） | 平成28年8月 | 日本デジタル教科書学会 | 教科書の構成分析に基づく小学校社会科デジタル教科書の設計理論 | 京都府京都市 京都産業大学 | 岡崎 均 | |
| 国内（一般演題） | 平成29年9月 | 日本教科教育学会 | 社会科デジタル教科書設計論 | 北海道札幌市 北海道教育大学 | 岡崎 均 | |
| 国内（一般演題） | 令和1年8月 | 日本デジタル教科書学会 | 社会科教科書のデジタル化と授業デザイン | 新潟県新潟市新潟日報 メディアシップ | 岡崎 均 | |
| 国内（一般演題） | 令和1年10月 | 和文化教育学会 | 地域に伝承する人形浄瑠璃と学校教育 | 徳島県鳴門市 鳴門教育大学 | 岡崎 均 | |
| 科学研究費等の取得状況 | | | | | | |
| 科学研究費／その他の助成金／外部資金 | | | | | | |
| 区分 | 種類 | 題目 | 代表・分担の別 | 期間 | 助成額（期間内の総額） | |
| | | | | | | |
| 特許 | | | | | | |
| 特許名称 | 発明者／出願人 | 出願日／出願番号 | 公開番号 | 取得した場合 → | 公告・特許番号 | 国 |
| | | | | | | |
| Ⅲ 加入学会および社会における活動 | | | | | | |
| 期 間 | 内 容 | | | | | |
| 加入学会 | | | | | | |
| 平成4年6月～ | 社会系教科教育学会員（現在に至る） | | | | | |
| 平成4年7月～ | 全国社会科教育学会員（現在に至る） | | | | | |
| 平成24年4月～ | 社会系教科教育学会理事（現在に至る） | | | | | |
| 平成25年4月～平成29年3月 | 和文化教育学会会員 理事 | | | | | |
| 平成26年1月～ | 日本デジタル教科書学会（現在に至る） | | | | | |
| 平成28年4月～令和3年3月 | 社会系教科教育学会編集委員 | | | | | |
| 平成29年4月～ | 日本教科教育学会員（現在に至る） | | | | | |
| 平成29年4月～ | 和文化教育学会幹事（現在に至る） | | | | | |
| 社会的活動 | | | | | | |
| 平成29年6月1日～8月31日 | 大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員 | | | | | |
| 平成29年8月 | 愛媛県西予市教育研究協議会情報教育委員会講演 | | | | | |
| 平成29年10月 | 第58回愛媛県視聴覚教育研究大会講演 | | | | | |
| 平成30年8月 | 大阪府小学校社会科教育研究大会実行全体会議講演 | | | | | |
| 平成30年6月～平成30年8月 | 大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員 | | | | | |
| 平成31年2月 | 南河内地区小学校教育研究会社会科部会学習会講演 | | | | | |
| 令和1年6月～令和1年8月 | 大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員 | | | | | |
| 令和1年8月 | 大阪府小学校社会科教育研究会泉南大会学習会講演 | | | | | |
| 令和1年11月 | 第57回大阪府小学校社会科教育研究会泉南大会講演 | | | | | |
| 令和3年11月 | 第62回愛媛県メディア教育研究会講演 | | | | | |
| 令和3年12月 | 愛媛大学大学連携セミナー教材開発プロフェッショナル講座講演 | | | | | |
| Ⅳ 管理活動 | | | | | | |
| 期 間 | 内 容 | | | | | |
| 委員会活動 | | | | | | |
| 平成29年4月～平成31年3月 | 全学学生委員会委員 委員長 | | | | | |
| 令和1年4月4月～令和3年3月 | 全学学生委員会 副委員長 | | | | | |
| 平成30年4月～令和3年3月 | 障がい学生支援委員会 委員長 | | | | | |
| 平成30年4月～令和3年3月 | 教育学部副部長 | | | | | |
| 令和1年4月～令和3年3月 | 教育学部教務委員会 委員長 | | | | | |
| 令和4年4月～令和5年3月 | 教育学部教育学科長 | | | | | |

| | |
|-----------------|-------------------|
| 特別プロジェクト活動 | |
| 平成29年4月～平成31年3月 | 学生募集戦略会議委員 |
| 平成30年4月～平成31年3月 | 新推薦入試体力テスト検討部会委員 |
| 令和1年7月～令和1年8月 | 105分授業検討委員会 |
| 令和3年4月～令和4年3月 | 大学ビジョン推進タスクフォース委員 |

V クラブ活動の指導業績

| | | | | |
|--|---|-------|--------|---|
| 1. 指導クラブ名 | 部 | 2. 役職 | 3. 部員数 | 人 |
| 4. 現場指導の頻度 | ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない | | | |
| 5. 合宿指導 | 年間合宿回数： | 回 | 延べ日数： | 日 |
| 6. クラブの競技力向上への取り組み | ①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない | | | |
| 7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み | ①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない | | | |
| 8. 部員の就職指導への取り組み | ①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない | | | |
| 9. 年間の引率公式大会名 | 大会名 | 期間 | 場所 | |
| 10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。) | | | | |
| 開催期間 | 大会名 | 成績 | 場所 | |

VI 賞罰 (職務に関する賞罰)

| 年 月 | 受賞等機関名 | 内 容 | 備 考 |
|-----|--------|-----|-----|
| | | | |